

令和4年 新春を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。お陰をもちまして、本市は、昨年6月1日に市制施行70周年を迎えることができました。これもひとえに市民の皆様の温かいご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症一色の一年でありました。「変異株」の出現や、「第5波の到来」は、これまでに経験したことのない脅威であり、そのような中、一年延期となっていた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が無観客で開催されるなど、私達の生活に新型コロナウイルスは、深い影響を及ぼしておりました。

本市におきましては、市民の皆様が一日も早く安心して暮らせる日常を取り戻すことができるよう、徳島赤十字病院、本市医師会など市内の医療関係者のご協力を頂きながらワクチン接種を進めてまいりました。秋には、全国的な感染状況の改善を踏まえ、近隣を含む都道府県において発令していた「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が全面解除され、県内も「徳島アラート」の解除に伴い、飲食店の時短要請も解除されるなど、徐々に人出も戻りつつあるように見えてきております。

しかしながら、専門家の方々は、「第6波」は来ると予測しており、国内でも新たな変異株である「オミクロン株」に感染した方が確認されております。本市でも3回目のワクチン接種の準備を進めるなど、コロナ対策に最優先課題として取り組んでまいりますので、皆様におかれましても、これまで同様、引き続き、感染症対策に努めていただきますようお願い申し上げます。

一方で、コロナ禍においても、本市が今後継続的に発展していくためには、南海トラフ巨大地震など自然災害への備えや、豊かな農・水産資源、文化資源等を活用した賑わいの創出、子育てしやすい街づくりなど、多くの課題に取り組んでいく必要があります。特に、「地方創生」による人口減少抑止に向けた施策は最重要課題の一つと捉えており、令和3年度中に策定する「第6次総合計画後期基本計画」に反映する予定であります。今住んでいただいている方には、本市にずっと住み続け、就学や就職等で一度市外に転出された方には、ふるさと小松島に戻りたいと思っていただけるよう、小松島のイメージを変えて、人口増加に向けて若者や子育て世代から選ばれるまちをめざしてまいります。

同時に、賑わいは常に創出し続けていかなければならないと考えております。昨年秋には、夏に開催できなかった小松島港まつりを今までとは違ったスタイルで開催いたしました。本年においても、1月23日に、本市初となるマラソン大会「小松島逆風ハーフマラソン大会」を開催し、アフターコロナの時代を見据えた地域活性化策を展開してまいります。

引き続き本年も、感染拡大防止策、地域経済の活性化等、市民の皆様寄り添った施策を、スピード感を持って展開してまいりますので、今後とも、皆様の変わらぬご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、本年が市民の皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和4年1月1日 小松島市長 中山 俊雄